

「もじゃもじゃペーター」から現代まで 創作絵本のキャラクター展



「ペンギン・ピートの新しいお友だち」 マーカス・フィスター画

from Penguin Pete's New Friends, illustrated by Marcus Phister, © 1988 Nord-Süd Verlag AG/North-South Books, 8625 Gossau, Zürich Switzerland

特集 サンタクロース諸君



伊藤 巨の ペーパーレリーフを中心に

伊藤 巨画 1992年

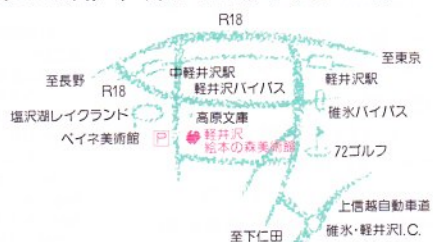
● 会 期 **1994年7月2日(土)~10月2日(日)**

● 開館時間 9:30~17:00(最終入館16:40) 会期中無休

● 入 館 料 大人 700円/中・高生 400円/小学生 300円

● 主催 軽井沢絵本の森美術館

● 後援 長野県教育委員会/軽井沢町教育委員会/信濃毎日新聞社



【交通】JR中軽井沢駅・軽井沢駅より車10分
軽井沢駅より路線バスが運行しています。
(7月中旬~8月末)
上信越自動車道碓氷・軽井沢I.C.より車15分

軽井沢絵本の森美術館
KARUIZAWA MUSEUM OF PICTURE BOOKS

〒389-01 長野県北佐久郡軽井沢町塩沢182-1
TEL.0267-48-3340



「もじゃもじゃペーター」から現代まで 創作絵本のキャラクター展



Hof de Bismarck

「もじゃもじゃペーター」 ハインリヒ・ホフマン画

1848年/スピーダム
(初版1845年/フランクフルト)



「ケンジントン公園のピーター・パン」 アーサー・ラッカム画

1907年/ロンドン
(初版1906年/ロンドン)



「しろくまくん、どこへ？」 ハンス・ド・ビア画

from Little Polar Bear, illustrated by Hans de Beer, ©1987 Nord-Süd Verlag AG/ North-South Books, 8625 Gossau, Zürich Switzerland



「ゆきだるまのさがしもの」 ヨーゼフ・ヴィルコン画

from Flowers for the Snowman, illustrated by Josef Wilkon, ©1988 Nord-Süd Verlag AG/ North-South Books, 8625 Gossau, Zürich Switzerland



「魔法をかけられた学校」 エロール・ル・カイン画

from The School Bewitched, illustrations copyright © Errol Le Cain 1985, Blackie and Son, London

現在に至るまでに、創作絵本には実に多くの魅力あるキャラクター(主人公)たちが生み出されてきました。そこで今展示では、1845年に出版された「もじゃもじゃペーター」から現代のキャラクターまでを時間の経過に沿ってご紹介いたします。

「もじゃもじゃペーター」はドイツの医師H.ホフマンによって作られました。3才の息子のクリスマスプレゼントに絵本を贈ろうと町中探したけど意に沿うものが見つからず、自ら作ってしまったというこの絵本は、今では各国で読まれています。ペーターのほかにも「スープざらいのカスバル」や「いじめっ子フリードリッヒ」などが登場し、教訓的内容におかしみが加味されています。それから20年後、今でも人気のある「不思議の国のアリス」がイギリスで出版されました。本書は作者L.キャロルが学寮長の娘たちと川遊びに行った際に語ってあげたお話がもとになって生まれました。また、1904年に初演された「ピーター・パン」は、散歩の途中で知り合い交遊を深めた3人兄弟をモデルにJ.M.バリカ作り上げました。このように、ある特定の子どものために作られたお話が今では世界中の子どもたちに夢や希望を与えています。

今日なお絶大な人気を誇る(ピーターラビット)もB.ボターが親友の息子に送った絵手紙から生まれました。その私家版が1901年に出されましたが、その後(ババール)くうさこちゃん)など各国で動物キャラクターが誕生しました。これらはシリーズ化され、多く

の子どもたちに愛されつづけています。

そして、現代では実に多種多様なキャラクターが私たちの目を楽しませてくれます。動物キャラクターもたくさん誕生し、くしろくまくん)のように絵本からとび出してグッズとなり、より身近で親しまれるようになったものもあります。人間を主人公とするものでは、個性的なキャラクターが登場してきました。「魔法をかけられた学校」のくミス・フィッツロイ・ロビンソン)もその1人でしょう。このほか、本来は生命のない「人形」や「乗り物」などが絵本の中では魂を与えられ大活躍しています。今世紀半ばになると「色」とか「形」までもが主人公として登場してきました。その後このようなユニークなキャラクターも増えてきました。「ゆきだるま」もその1つで、いろいろな絵本が出版されています。

また「サンタクロース」もユニークなキャラクターの仲間といえましょう。現在のような姿で書物に登場したのは19世紀なかごろです。その後いろいろに性格づけられたサンタの絵本が制作され、そのスタイルは定着してきました。そこで、今回はそれらを絵本の展示にて紹介するとともに、伊藤巨氏の「ペーパーレリーフ」という独特の技法で描かれたサンタクロースを展覧いたします。

絵本の世界に生み出された多彩なキャラクターたちの鼓動を感じていただけますよう、心より願っております。

特集 サンタクロース諸君 伊藤 巨のペーパーレリーフを中心に



〈ペーパーレリーフ〉について

この手法はさきわめて工芸的なものです。まず下絵を描き、それを材料となる「ボール紙」に写し、部分部分を切り抜きます。それを下絵どおりに、高低、遠近をつけて積み上げるように貼ります。彩色は、油絵の下塗りなどに使用するジェッツで肌合をつくり、その上に家庭用ペンキの水溶性塗料をかけます。乾燥させてはまたかけ合わせ、その間に柔らかい布で研ぎ出しをしを調子を出します。研いでいるうちに出てくる木彫や焼物のような、思わぬ効果が期待できるのが喜びであると作者伊藤氏は語っています。

伊藤 巨氏 略歴 WATARU ITOU

1921年新潟市の生まれ。印刷版下工、看板画工から新聞社、出版社、広告代理店を経て絵画技法を独習。現在フリーランスデザイナー、イラストレーター、編集者として活躍中。ペーパーレリーフの技法は建築材デザインで試みたのちイラストレーションの領域までひろげたもの。

1983年に個展「マザー・グースメロディ」を開催以後、グリム童話や、宮沢賢治の童話を題材とする作品を発表(現在花巻市宮沢賢治記念館に常設展示)。絵本作品としては「度十公園林」がある。